

**HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 57 目次—————

- Page1: 日本の皆さん、わたしたちの新しい制服です！
Page2-3: コンゴ現地からの報告
Page4-6: 洪水による非常事態の報告
Page7: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
HINT 事務局からのお願い
Page8: HINT 事務局からのお知らせ

日本の皆さん、わたしたちの新しい制服です！



コンゴ民主共和国の奨学生：詳細報告 2-3 ページ

HINT(特活) ヒューメイン・インターナショナル・ネットワークは、1994年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために創設された東京都認証 NPO（非営利活動）法人です。国を超えた隣人愛を示されたイエス・キリストの教えにしたがって、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金運営には 29 年以上の実績があり、キリスト教会や NGO 団体との連携を活かしつつ、貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育てています。

コンゴ現地からの報告

29年にわたり、コンゴ民主共和国（以下、コンゴと略）の奨学生のために、温かいご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

新学期もスタートし、新しい学生たちも未来への希望を胸に秘めて頑張っています。現地コーディネーターからの報告（抜粋／5月24日時点での現地情報）をお届けいたします。



制服を支給された奨学生

■奨学金事業報告

コーディネーター ムサギ、K. タデー

1. 2023年5月の状況

HINTの役員会は総会の準備の為と翌年度の会計を考慮するためにニュースレターを準備されておられます。このレポートは2022年9月から2023年5月までのHINTのアフリカ・プロジェクトの教育プログラムの報告です。

2. 現在の状況

a. 運営 HINTのアフリカ・プロジェクトは多くの問題に直面しています。2022年8月以来事務所の所有権に巡って争いが起こり、事務所を閉鎖しました。その後、フカブの裁判所との交渉により2023年2月に所有権は回復しました。HINT代表と協義の結果、事務所をムサギ氏の自宅に移転、物流手段が不十分で費用は高額でした。また雨水で管理用品が被害にあいました。

b. 財政 2022-2023年度の学校年度予算の執行は銀行の送金状況において遅れました。送金における電話番号、郵便コードに誤りがありましたが、現地の銀行の協力のもとで改善し、事務所も整理されました。

c. 学生の状況とコンゴの安全性 学生の状況は次のような理由で好ましくありません。国内の内乱状態のため経済的状況が悪化しており、さらに穀物生産の被害も顕著です。中学校の授業料が倍増しました。授業料の払い込みが困難になっています。

2023年5月4日に起こった豪雨による危機では、人的被害はありませんでしたが、学生の家々が雨水によって崩壊し、流されました。学生の試験は2023年4月29日に行われました。フカブは比較的平穏ですが、コンゴ東部、東南地域においては軍事的混乱があります。

d. カレへの自然災害 2023年5月4日のカレへの自然災害に対して人道支援組織が組織されました。45の人道支援組織により、健康、教育などの7つの団体が作られ運営に当たりました。



奨学生（中・高校生）



奨学生（小学生）たちの出席確認

ブシュシュとニヤムクビの二つの村に関する報告として、人口合せて 46,883 人が被災、510 名が死亡。200 名のけが人が 52 の病院に搬送され、54 名はブシュシュのヘルスセンターへ、60 名はニヤムクビのクリニックに搬送されました。見つかっていない 5,255 名の被害者もいます。

被災後の生活再建のために住居、食物、医療などが必要とされています。物的損害は、1,300 以上の家々の崩壊。4つの教会、6つの学校、マーケットや健康センターの崩壊。国道の寸断。漁業関係の被害。牛やヤギなどの国内の家畜の被害。野菜や果物の耕作地の被害。崩壊し住宅を失った人々に対する住宅の提供が必要です。

カレヘ首長による緊急の要望 ヘルスセンターにて被害者への医療、状況のひどい地域に対して食物の配布。両村長から不十分な住宅事情が述べられました。地方マーケットの再建。植林活動、国道の建設、IDカードの配布、村の学校



本年度の奨学生とコーディネーター

へ通うには厳しい状況にある子供たちへの授業料の支払いが必要です。

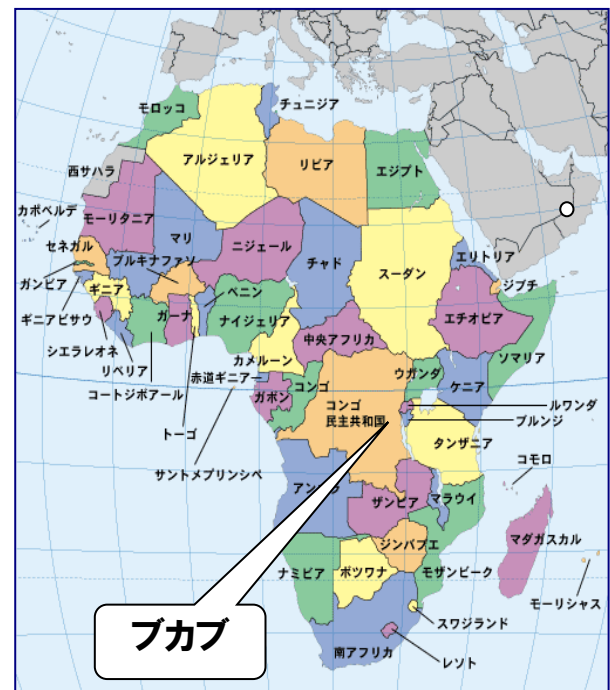
e. 困難の遭遇と提案 今は雨期が終わり乾燥期に入ります。インフルエンザと咳をもよおします。課題として基金の受領の遅れ。学校授業料の増加。事務所移転などがあったため財政的レポートが遅れました。

f. ブカブの HINT アフリカ・プロジェクトの新しい事業 すでに述べてきましたが、災害から生き残った学生に対して 2023-2024 年度の教育の分野の援助を増額していただきたくお願いいたします。2022-2023 年度において登録した学生に対しての援助は不十分であったためです。財政レポートは 2022-2023 年度の学生の成績表と一緒に取り扱い、後程お送りします。

HINT 役員ならびに会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。2022-2023 年度の学業の支度をしてくださった皆様に心から感謝いたします。

2023年5月24日

ムサギ・タデー



奨学生がいるブカブは、コンゴの東部地域、キブ湖を挟んでルワンダやブルンジにも近い国境付近に位置しています（注・スーダン共和国は 2011 年に南スーダン共和国と南北で分割されました）。

洪水による非常事態の報告

2023年5月2日から4日かけて、豪雨による大規模な洪水と土砂崩れが南キヴ州カレヘ領のブシュシュとニヤムクビで発生しました。この場所は、ブカブから約80キロ（車で2時間程度の距離）の場所です。コーディネーターの報告に関連し、コンゴ民主共和国（以下コンゴ）で発生した南キヴ州の洪水のニュースをユニセフ現地事務所の報告書から抜粋してお届けいたします。



洪水の中での食料の配布（UniRR）

■災害の概要

現地では438人以上が死亡、180人が負傷し、うち25人がブカブの地方病院で治療を受けています。2,500人以上がまだ行方不明です。数百人の子どもたちが家族と離れ離れになったり、孤児になったりしています。約3,000戸の家屋が被害を受け、基本的な社会サービスの提供が著しく低下しています。

この災害が地域住民、特に子どもたちに与えた心理社会的影響は非常に大きく、ブシュシュとニヤムクビで家族が移動しているため、保護者のいない子どもや離れ離れになった子どもを含め、直接被害を受けた人々を特定することが、依然として課題となっています。

厳しい活動状況にもかかわらず、ユニセフとそのパートナーは、子どもたちとその家族に対し、多方面から命を救う支援を提供し続けています。

■救援の状況

ニヤムクビとブシュシュが壊滅的な被害を受けたことにより、政府および人道支援団体による緊急対応が行われました。

州保健局（DPS）と人道問題局（DIVAH）の5月21日の最新推計によると、43人が死亡しました。

人道問題局の最新の推計では、438人が死亡し、2,536人が行方不明となっています。コンゴ民主共和国赤十字の主導のもと、遺体の搜索と、尊厳ある安全な埋葬のための遺体の回収が続けられています。

被害を受けた3,371棟の家屋のうち、1,200棟が廃墟と化しています。ニヤムクビとブシュシュの公共水道網はほぼ完全に破壊され、特に未回収の遺体に関するリスクを考えると、住民は水質の悪化による感染症の危険にさらされています。

5月9日の国連の関連機関である国際移住機関（IOM）の推計によると、299世帯、1,495人が近隣の自治体（カニューイ、ラムビラ、ムワダ、イハシ）に移転しています。土砂崩れの危険性がある地域でありながら、自然発生的な集落が発生しています。その状況は避難民の増加とともに増加しています。

■5月9日現在

洪水により3つの民間保健センターが破壊され、ワクチン接種、出産前・就学前検診などの活動に支障をきたしています。

これらの活動は現在、徐々に再開されています。その他の地域の医療施設では、最近、軽傷の人々を治療するのに十分な医薬品が届きました。しかし今後も医療スタッフの支援や、清潔で安全な水の確保が必要です。

この自然災害は、洪水によって直接被害を受けたニヤムクビとブシュシュの住民以外にも、より広い範囲に影響を与えています。

人々はルシェベレやカレヘといった近隣の地域に避難しています。特に子どもたちが保護のリスクにさらされています。

この点に関して、地域コミュニティや地元当

局と協力して、同伴・離散している子どもの特定を進めています。

合計 33 の学校が影響を受け、その数は以下の通りです。

9,342 人の生徒（71%が小学生）と 311 人の教師が被災しました。1,000 人以上の学齢期の子どもたちが行方不明になっており、12 人の教員や学校スタッフが死亡または行方不明になっていると報告されています。

学校活動は、ニヤムクビとブシュシュの両地域で再開されました。

ニヤムクビへのアクセスはカヌーのみで、人道的アクセスや物資の輸送を難しくしています。

ニヤムクビとブシュシュの間にあるいくつかの村は、まったく援助を受けていません。

政府は、被災者の移転先として 2 つの候補地を挙げています。地元当局や住民との話し合いが行われています。

■ユニセフの対応

ユニセフは、危機が発生した当初から、被災者のニーズを満たすため、緊急に、水、衛生、子どもの保護、保健と栄養、避難所といった複数のセクターで人道支援を行ってきました。WASH の緊急対応は、ユニセフ・ラピッド・レスポンス (UniRR) とケース・エリア・ターゲット・インターベンション (CATI) によって支えられています。2 つの地域のすべての人（直接被害を受けた人たちとホストコミュニティ）を支援し、5 月 13 日にユニセフが発送した非食糧品、WASH、保健用品はすでに配布されました。

ブカブやゴマからの児童保護物資（テント、キット）、教育物資に加え、5 月 13 日にユニセフから発送された非食料品もすでに配布されています。カレへの対応を支援するために、ユニセフから 25 トン以上の物資が送られました。

■感染予防対策 (IPC) / 水・衛生・公衆衛生 (WASH) について

ユニセフとパートナーは、ブシュシュに 1 日あたり 25,000 リットルの生産能力を持つ水処

理・配水ステーションを設置しました。

これまでに 3,458 人が利用しています。6 つの緊急用トイレ（女子用 3 つ、男子用 3 つ）を設置しました。

コレラ CATI チームの 2 つ（赤十字南キヴと AIDES）のうち 5 名がニヤムクビとブシュシュに配備され、WASH セクターを支援しました。WASH セクターでは、以下のことを行っています。

コンゴ赤十字と協力し、遺体の捜索と安全で尊厳のある埋葬の提供。

20 箇所の塩素消毒ポイント（ニヤムクビとブシュシュに各 10 箇所）を設置し、134,764 リットルの水を 6,738 人に提供。

710 世帯への浄水器製品の配布。

衛生習慣、家庭での水処理、コレラ予防について 9,716 人に啓発。

この 2 つの地域では、コレラの疑いがあるケースは報告されていませんが、コレラの発生を防ぐために、積極的・消極的な監視活動が行われています。

■迅速な対応

報告期間中、ユニセフは他の NFI や WASH の初動対応者と連携し、ニヤムクビ（2,046 世帯）とブシュシュ（954 世帯）の被災世帯に 3,000 個の衛生用品キットを配布しました。ここでは AIDES と World Vision と連携しています。

■子どもの保護 / ジェンダーに基づく暴力

ACAD とのパートナーシップを通じて、報告期間中、ユニセフは、数百人の保護者のいない子どもたちや離れ離れになった子どもたちを対象に、ブシュシュの子どもに安心できるスペースで利用可能なサービスの範囲を拡大しました。

約 800 人の子どもたちが心理社会的支援を受け、4 人の性的暴力の生存者を含む 14 人の子どもたちが個別のメンタルヘルス支援を受けました。

青少年のために 7 つのフォーカス・グループが組織されました。

平均して、毎日 600 人の子どもたちが、年齢に

応じたレクリエーション活動に参加しています。

先週、保護者のいない子どもや離れ離れになった子どもを識別し、ケアするための追加の保育トレーニングを受けました。

子どもたちのために、国際食糧機関（FDA）との協働により、子どもたちに栄養価の高い食料を毎日配布しています。

また、子どもたちの衛生状態を良好に保ち、健康状態を向上させるために、洗濯・手洗いキットが提供されています。ユニセフはセーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル（SCI）と連携し、思春期の女子に 100 個以上の女子用のキットを贈りました。

■健康

保健クラスターと連携し、ユニセフはニヤムクビとブシュシュの保健施設に 3 つの産科キットを提供しました。カレへの病院にはマラリアキットを提供しました。ユニセフはまた、定期的な予防接種活動の再開を支援しています。

麻疹のフォローアップキャンペーンの準備、ビタミン A の補給とメベンダゾール（虫下し）の投与も支援しています。

■教育

ユニセフは、教育および保護サービスを提供するために、地元の教育当局および子どもの保護チームと協力して、仮設学習スペース（TLS）を設置する場所を特定しています。

ユニセフはすでに、TLS を設置するための 6 つのテントを提供し、1,000 人の生徒のために学用品を届けて、できるだけ早く授業を再開できるようにしました。授業はできるだけ早く再開される予定です。

■栄養管理

ユニセフの第一応答者（CATI と UniRR の評価チーム）は、一軒一軒訪問し、住民の栄養失調のスクリーニングを行いました。重度の急性栄養失調に苦しむ子ども 1 人が、地元の医療施設に紹介されました。AFPDE は来週、地元の医療施設

に追加の物資を運びます。

■社会的行動の変化

ユニセフは、カレへの 2 つのコミュニティ・ラジオ局を通じて、育児に必要な家族のあり方について、地域コミュニティを啓発しました。

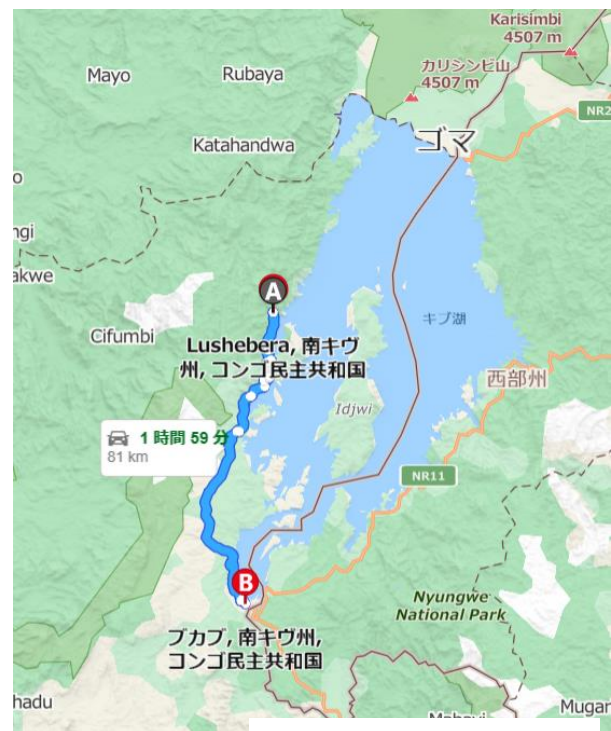
また、コミュニティ・アウトリーチ・チームや他のコミュニティ・リーダーによる避難民と受入民の詳細な集計を支援しました。

引用（抜粋）：UNICEF DRG Humanitarian Situation No. 2 (Flooding in South Kivu) - 14-21 May 2023



倒壊した家々

災害地域・周辺地図（南キヴ州キブ湖）



©2023Microsoft

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿

(2022. 11. 1-2023. 4. 30・順不同・敬称略)

神山 和美	渡邊 玲子
桐山 泰柁	安達 裕美
カトリック松原教会	進藤 重光
岡田 直子	森川 浩一郎
武田 知子	古城 かほる
高澤 佳代乃	安藤 和彦
狩野 繁之	石原 達哉
谷口 義武	末永 恵子
四條 淳也	野坂 俊弥
酒井 匠	桃井 和馬
池田 ゆう子	品田 和之
篠塚 彰・久美子	武井 秀彦
武井 弥生	比嘉 勇也
市川 幸一	安藤 秀樹
岡田 多恵子	禹 満
西嶋 久恵	国分 一也
村井 厚子	末永秀雄・美津代
高橋 章	山田 篤
東矢 高明	匿名の皆様

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★左記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、最後にお振り込みをいただいた直近のお振り込み日となります。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

★特別なご支援（特定寄付）の場合は、その旨をお知らせいただくと幸いです。

HINT 事務局からのお願い

会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします（賛助会員：1 口 5,000 円から・学生会員：1 口 2,000 円から。ご寄付の場合はご随意にお願いいたします）。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

（他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711）

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

● 2023 年度の役員・ボランティアを募集します

2023 年度の HINT 役員とボランティアを募集しています。非営利活動を支えるのは、皆さまからの大切な会費収入と同時に、日々の小さな事務作業の積み重ねです。役員は総会で選任され、定期的な理事会に出席し、HINT の実務的な業務をしていただきます。

印刷作業や荷物運び、翻訳などのテンポラリーなボランティアの仕事もあります。登録ボランティアとして、メールアドレスをご登録いただき、ご都合のつく時に、実務的な作業に随時ご協力いただければ幸いです。皆さまの積極的なお申し出をお待ちしています。

ご連絡・お問い合わせ先：HINT 事務局

E-mail: hint_info@epopee.co.jp

HINT 事務局からのお知らせ

《HINT総会のお知らせ》

日時：2023年6月24日(土)14:00~15:00

場所：新宿区新宿区戸塚地域センター5階
会議室3

住所：東京都新宿区高田馬場2-18-1

TEL：03-3209-8001（下記案内図参照）

アクセス：JR・西武新宿線「高田馬場駅」下車徒歩3分

2023年度のHINTの総会を開催いたします。
議題：2022年度活動報告、2022年度決算、2023年度役員改選、2023年度活動計画、2023年度予算計画等。

どなたでもご参加いただけます。HINTの活動について、ご関心のある方は是非おいでください。事前のご連絡は不要です。

総会後に、久しぶりに楽しいリアル懇親会（参加自由）を予定しております。



新宿区戸塚地域センター（地図）

- 2022年12月18日(日)に講演会を開催しました(於・カトリック松原教会)

「コンゴ東部の現状」

オノレ・カブンディ



第43回エポペのクリスマス記念ミサの後で、オノレ師（淳心会）から現地の様子を伺いました。その要旨を掲載いたします（文責：編集部）。

コンゴ民主共和国（以下、コンゴと略）ではルワンダの難民の発生により、東部地域に多くの難民を受け入れたわけですが、その難民を攻撃する隣国とパートナー関係にある武装集団があり、軍事的な衝突が絶えません。しかし、欧米の圧力によって、自国を守るための強力な武器を購入することはできず、さまざまな制限があります。その結果、コンゴには世界で一番規模の大きな国連軍が駐留することになりました。

ところが、現地からのコーディネーターの報告（ニュースレター56号参照）にもあるように、この国連軍と武装集団が、武器の取引を行っていたことが分かりました。これに怒った人々は、大規模なデモを起こすなど、大きな問題になり、政府も国連軍に出ていくように要求したのです。国内を安定化するために国連軍を受け入れたのに、残念ながら、かえって自国の安全を脅かす結果となっているのが現状です。この状況を改善できるのは地道な教育活動からだと思います。

特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク（HINT）事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 5-43-1 グリーンビル 2F 平兵衛√2 内

電話&FAX: 03-6336-9624

e-mail: hint_info@epopee.co.jp

ホームページ: <http://www.epopee.co.jp/hint>